活動的で自立した青少年を育てるボーイスカウト！

ボーイスカウト
茨城県連盟

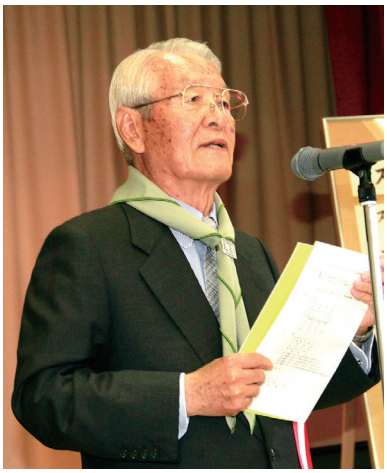


平成30年8月7日　第17回日本スカウトジャンボリー

Vol. 48
2018#2

日本ボーイスカウト茨城県連盟広報誌

SCOUTING 茨城



平成 30 年度年次総会開催
關 正夫 連盟長から山田 隆士 連盟長に

平成 30 年度ボーイスカウト茨城連連盟年次総会が、5 月 20 日（日）に茨城県青少年会館において、大井川茨城県知事（代理･石毛知事公室室長）をはじめ、ボーイスカウト振興国会議員連盟、ボーイスカウト振興茨城議員連盟の方々、関係行政組織、諸団体の皆様のご出席を賜り、開催されました。

総会では、事業報告、事業計画等の審議・承認がなされましたが、今回は、長きに亘って本県連盟の発展に尽力いただきました 關 正夫 第二代連盟長が今総会をもってご勇退され、後任に、山田 隆士 副連盟長が第三代連盟長に推戴されました。

◆ 關連盟長ありがとうございました

關 正夫 連盟長は､平成 2 年（1990 年）から本年まで 28 年の長きに亘って連盟長として本県連盟の発展に尽力されました。今後は､「名誉顧問」として大所高所からのご指導をいただくことになります。

ここに長年にわたるご尽力に心からお礼を申し上げます。

思い返しますと初代 徳川宗敬 連盟長の後をうけて第二代連盟長として経済界から関彰商事株式会社の 關正夫 社長(現会長）にお願いすることとなりました。

スカウト運動の発展のためには、県連盟の大きな役割はスカウトを育てる「指導者の養成」と円滑な活動が可能となる「財政基盤の確立」が重要といえます。關連盟長には、就任の翌年度から 10 年間にわたり基本財産として総額 2 千万円をご寄付いただき、より強固な基本財産として今日に至っています。心から感謝を申し上げます。

また、關連盟長はスカウトたちに対して「日日の善行キーホルダー」の活用・実践を説かれました。「心のキーホルダー」というメッセージの中で次のように述べられています。「このホルダーをいただいた皆さん自ら『実践』というカギを心の中につけることであり、そしてそのカギは、スカウティングという運動の車を発進させるための「心のカギ」であります。・・・心のカギは忘れることもなく、一生持ち続けることのできるカギであると思います。」と述べられ、行うことによりスカウト精神が身につくよう呼びかけられました。

關連盟長のご芳志とご指導に心から感謝すると共に、県連盟の発展とスカウト教育活動の充実を期して更に精進することをお約束したいと思います。本当に長い間、有り難うございました。

ボーイスカウト振興茨城議員連盟総会開催



平成30年6月1日(金)「平成30年ボーイスカウト振興茨城議員連盟総会」が茨城県議会大会議室で開催されました。総会には、大井川和彦 名誉連盟長、山田 隆士 連盟長をはじめ、25 名のボーイスカウト茨城県役員・指導者・維持財団役員等が参席いたしました。

「ボーイスカウト振興茨城議員連盟」は、56 名の県議で構成する超党派の議員連盟で、ボーイスカウトの活動にご理解をいただき、長年に亘り、茨城県連盟の活動へのご支援をいただいております。

本年度も、県連盟、維持財団に助成金をいただきました。





山田 隆士 連盟長 を偲んで

日本ボーイスカウト茨城県連盟
理事長　　八木　雄二

山田 隆士 連盟長が急逝されました。

今年度の年次総会にお元気な姿を見せていたのが、つい昨日のように思い出されます。たいへん残念です。

連盟長は、昭和 30 年に土浦第 1 団にカブスカウト隊が発足した時にスカウトとして入隊し、以後、BS 隊、SS 隊（現 VS 隊）、RS 隊に上進しました。その後、土浦第 1 団の BS 隊、SS 隊、RS 隊の隊長を歴任し、スカウトの指導に携わりました。石岡第 1 団に移籍した後は、団委員、団委員長を歴任し、地区役員を務めました。また昭和45年からは県連盟の事務局長､県コミッショナー、副理事長、理事長を歴任した後、本年 5 月 20 日に開催されました平成 30 年度年次総会において、全加盟員の総意により茨城県連盟第三代連盟長に推戴され、就任されました。

就任にあたって連盟長は「スカウトは“日日の善行”の先導者たれ！」として、日本連盟の初代総長であります後藤新平先生の「人のお世話にならぬよう　人のお世話をするよう　そして報いを求めぬよう」の教えの実践を述べられ､私たちに残されました。

また、日本連盟トレーナーとして、数多くの指導者講習会（現 BS 講習会）の主任講師やＷＢ研修所の所長を歴任し、指導者のレベルアップに努められました。更に、県キャンポリーやカブ・ビーバラリー等の主要な県連事業におきましても中心的な役割を担い、事業を成功裡に導いていただきました。そして、ご自身が県連盟スカウトとして初めて参加したフィリピンでの「第 10 回世界ジャンボリー」の経験をふまえ、国際人としての資質をそなえた人材の育成を目的とした県連盟海外派遣事業を推進されました。このように、連盟長は県連盟の発展・向上のために多くの功績を残されました。

５月に連盟長にご就任いただき、現在、県連盟が直面している少子化や意識の多様化、理解度の不足等々による加盟登録人員の減少に対し、これまでのご自身の経験から的確なご指導をいただけるものと期待していたところでありました。その矢先、県連盟を支える大黒柱を失ったことはたいへん残念なことであります。

ここに、心よりのご冥福をお祈りすると共に、加盟員一人ひとりが一致団結し、連盟長の意志を継いでボーイスカウト運動の発展に繋げることが、連盟長に対する永年のご努力とご苦労への感謝と御礼になるものと考えます。

連盟長、安らかにお眠りください。







山田隆士連盟長 職歴及びボーイスカウト歴

【職歴】

昭和 43 年　　県立鉾田第二高等学校教諭として赴任
昭和 62 年～　県教育委員会、牛久栄進高校校長、県教育次長を経て県立土浦第一高等学校長にて退職
平成 20 年～　智学館中等教育学校長
平成 21 年～　茨城県女性プラザ館長兼鹿行生涯学習センター長
平成 30 年 3 月　智学館中等教育学校長退任

【ボーイスカウト歴】

昭和 30 年～　土浦第 1 団 CS 隊入隊。以後 BS 隊、SS 隊、RS 隊に所属（大学時代は慶応大学 RS 隊に所属）
昭和 36 年～　土浦第 1 団 BS、SS、RS 隊長等を歴任
昭和 53 年～　石岡第 1 団団委員、団委員長、地区役員を歴任
昭和 45 年～　県連盟副コミッショナー、県連盟事務局長、県連盟理事、県連盟コミッショナー、県連盟副理事長、県連盟理事長を、副連盟長を歴任
平成 30 年 5 月　県連盟連盟長に推戴
平成 30 年 9 月　逝去

第 17 回 日本スカウトジャンボリー

01
暑かった。 そして熱かった。

「暑かった。そして熱かった。」

それが 17NSJ、第 17 回日本スカウトジャンボリーのいちばんの記憶である。

第 17 回日本スカウトジャンボリーは、８月４日～ 10 日までの６泊７日の日程で、石川県の能登半島の先端、珠洲市において実施された。

参加の単位は、今回から選抜ではなく普段の活動単位である隊での参加が可能となり、茨城からも多くのスカウトが参加した。

参加したスカウトたちは、あの異常な暑さの中でもとてもエネルギッシュに活動をしていた。さすがに気温が 36℃を超えたときには、大会本部から活動中止の通達が出されたが（県連派遣団本部の温度計で 39℃を記録）、大きく体調を崩すスカウトもなく、大会の多くのプログラムやキャンプ生活を大いに楽しんでいた。見送ったバスの窓から見えるスカウトたちの顔がそれを物語っていた。きっと心を熱くして帰途についたことだろう。









02
茨城の米は世界一　～クレイジーに米！食！丼！～

２地区のベンチャースカウトのダンスパフォーマンス「茨城の米は世界一！」が、アリーナショー前のフリーパフォーマンスのトップバッターを務めた。彼らの演技は、アリーナを大いに盛り上げ、続くショーへの雰囲気を見事に作り上げた。

ステージの上はとても緊張している様子だったが、演技が始まると、どんどんテンションは上がっていき、途中から最高調となり、はっちゃけていった。会場にいたスカウト達もそれに呼応していった。そして、思いが一つになり、「茨城の米は世界一！」を能登半島にに響かせることができた！

今度は来年アメリカで行われる第 24 回世界スカウトジャンボリーの大きなステージで、パフォーマンスを披露したいとのことだ。



03
ジャンボリー大集会の皇太子殿下のお言葉

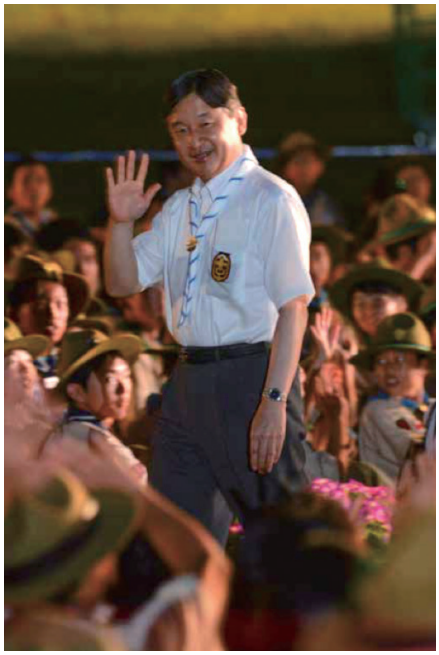
８月７日（火）。皇太子殿下が、お見えになられ、ジャンボリー大集会に出席されました。皇太子殿下は、昭和 53 年の静岡・御殿場で開かれた第７回日本ジャンボリーから欠かさずジャンボリーにご参加されています。今回も、お言葉をいただきました。

「挨拶に先立ち、この度の平成 30 年７月豪雨により亡くなられた方々に心から哀悼の意を表しますとともに、御遺族と被災された方々にお見舞いを申し上げます。被災地の復旧が一日も早く進むことを願っております。また、今回の災害に当たり、被災地のスカウトの皆さんを始め全国のスカウトの皆さんが、さまざまな支援活動に尽力されていると伺いました。皆さんの活動に深い敬意を表します。

第 17 回日本スカウトジャンボリーの大集会に、国内外から参加されたスカウトの皆さんと共に出席できることをうれしく思います。

私は、第７回大会以来、ジャンボリー会場を訪れていますが、毎回、皆さんが、日頃から、スカウト活動への参加を通じて自らの成長を促し、将来良き社会人となるために研鑽され、大会のさまざまな活動に積極的に、また真剣に取り組んでいる姿を、頼もしく感じます。私自身、皆さんと同じ年頃にジャンボリーに参加し、野営体験などのスカウト活動の貴重な体験をしたことを懐かしく思い出します。皆さんが、さまざまな活動に協力して取り組むことで、スカウト同士の友情を深められることはもちろん、海外からのスカウトと交流し、国際的な視野を広げることは、いろいろな形で必ず皆さんの将来に大きく役立つものとなるでしょう。

ここ能登の地は、長い時間を掛けて自然と調和した人の営みが造り上げた 里山里海を有しています。能登の豊かな自然と文化に触れながら、多くの活動に参加し、貴重な思い出を作ってください。スカウト運動の一層の発展と、我が国、そして世界の青少年の健全な育成が図られることを願い、大集会に寄せる言葉といたします。」



04
ジャンボリー大集会の県連旗手を受けて

私は、大集会での県連旗手を受けた時、周りは年上の方々ばかりで戸惑いや不安なことがたくさんありました。しかし反対に、そのような環境での心強さもあり、実際にステージ上に立った時は意外にもリラックスした状態で立つことが出来たのを覚えています。

ＭＣの方と初顔合わせをした時は、周りの大人の方々もとても優しく面白く接して下さり、特にＭＣの飯村周平さんには笑顔で話しかけて頂き、不安があった私としてはとても心強く嬉しく感じ、本番が楽しみになった瞬間でもあったと思います。

リハーサルで他の県の方々と顔合わせをした時は、年上の方々ばかりで気後れしてしまう場面も多々ありましたが、皆さんフレンドリーに接して下さり嬉しかったです。リハーサルもままならない中での本番でしたが、思いの外緊張せずリラックスした状態で本番に臨むことが出来ました。これも周りの方々の楽しく明るい雰囲気のお陰だったと感謝しています。

旗手として特に意識したことといえば目線と姿勢です。普段猫背気味の私は、特に姿勢に気を付けました。目線はしっかり前を見て、茨城県連盟の代表としての自覚をもって臨みました。各県連の紹介の後、舞台の上で、カラーチームの方々のとても素敵で圧倒されるパフォーマンスを間近に観ることが出来、とても感動しました。

旗手としての役目を終えてからは、県連紹介の方々とまとまって引き続き大集会を盛り上げました。周りで見ている方々も全員出演者の方々で、皆一丸となり大変盛り上がったことを今でも鮮明に覚えています。

顔合わせから終わりまで、日本ジャンボリーならではの盛り上がりとのりの良さ、そしてボーイスカウトならではのフレンドリーさと優しさにたくさん触れることが出来、貴重な体験と良い思い出になりました。

未熟で分からないことだらけの私に対して積極的に話しかけて下さった先輩方の優しさに触れられたことをとても嬉しく思い、尊敬の気持ちを持ちました。そして私も先輩方のようなスカウトになりたい、また次回日本スカウトジャンボリーに参加したいという気持ちで一杯です。

（守龍隊・守谷第１団 今井美沙希　表紙写真）

01
WB研修所
スカウトコースと課程別研修終了

ウッドバッジ研修所スカウトコース茨城第２期（所長：村田隆浩 日本連盟リーダートレーナー）が、平成 30 年 10 月５日（金）～８日（月）の３泊４日の日程で土浦市青少年の家において実施されました。参加者は県内外から 23 名。また、同じく課程別研修は、ビーバーからベンチャーの４コースが 10 月８日（月）に同場所で 25 名の参加者を得て実施されました。

このスカウトコースは、昨年度から導入された指導者の基礎研修で、ボーイスカウトの教育活動の全容を体験することによって理解し、そして自分が担当するビーバーからベンチャーのそれぞれの部門との関連を把握し、一貫したスカウト教育につなげていくためのコースです。



第２期となるこのコースは、第１期の評価を基に、県連トレーニングチームの精鋭による最強の布陣で臨みました。所長の強力な指導の下、細やかで奥深い班担当スタッフや上班のあるべき姿を示してくれた上級班長、そして厳しい中にも優しさのある隊指導者等により、泣いて笑った、愉しい４日間となりました。



ウッドバッジ研修所スカウトコース茨城第２期
期間：平成30年10月5日（金）～8日（月）
場所：土浦市青少年の家

02
「アルミ缶で飯ごう炊飯」が
MOA 美術館児童作品展銀賞



第 30 回ＭＯＡ美術館児童作品展において、筑西市伊讃小学校５年生 桜井祐樹 君（筑西第１団カブスカウト）のカブスカウト活動を描いた「アルミ缶で飯ごう炊飯」が、みごと銀賞を授与されました。

桜井君は、ボーイスカウトの活動が大好きで、学校の仲間にカブ隊の活動を描いて知らせるために、この絵を描いたとのことでした。

★ＭＯＡ美術館児童作品展とは、海外を含め全国 400 以上の会場で開催し、応募総数は 45 万点を超える作品展です。子ども達の創作活動を奨励しています。

03
キミから始める
「日日の善行」

「日日の善行」

これは、私たちボーイスカウトの心を端的に表したスローガンです。

ローバーやリーダーとして、地震や洪水などの災害復旧支援などに自発的に参加することは大切なことです。しかし、学校に通うスカウトにとっては、なかなかできるものではありません。ですが、自分の日常の身の回りをよく見ていると、自分でできるちょっとした善行がすぐにみつかります。

「いつも他の人々をたすける」のがスカウトです。思いやりや感謝の心から、自分に出来るちょっとした良いことを勇気をもってしていこう、毎日何かしらの善行を行っていこうというものも「日日の善行」の大切な取り組みなのです。

茨城県連では、これを県民運動として広めていこうと取り組んでいます。はじめのうちは善行を意識して行ったとしても、それを習慣へと導き、次第に意識しないで、ごく自然にあたりまえのように善行ができる、そんな社会をスカウトが率先して作っていこうと考えています。



「一日一善」という似た言葉がありますが、一善という言葉は、一つの良いことをすればいいという感じに捉えられてしまいます。また、「日々」と書かずに「日日」と敢えて書くのは、「日々」だとなんとなく過ぎていってしまうようなイメージなので、この「日日」にすることで、１日１日をしっかりと意識してるんだよということで「日日の善行」をボーイスカウトのスローガンとしているのです。

さぁ、キミも「日日の善行」始めよう！！

→ http://www.scout-ib.net/03bs 日日の善行 1.html

04
「BS イバラキ・グランプリ」
“IB-GP” 地区大会、順次開催

去る９月 24 日 (月) つくば市吾妻小学校体育館において第１回第４地区 IB グランプリが開催されました。当日の天気予報だと曇り時々雨でしたが、お天気も上々、盛り上げに一役買ってくれました。

実行委員は 8:00 に集合し、会場準備。守谷第一団の CS、BVS 隊長２名の指導を受けコースの組み立てを行いました。準備が完了し、スカウトたちの顔がワクワク、ドキドキの中、いよいよ、セレモニーが開催されました。県内初の GP 開催ということもあり、杉浦県副コミッショナーにも来ていただいてあいさつをもらい、華やかに始まりました。

ビーバースカウト、カブスカウトも、平等に練習走行で自分の車の調子を見て、調整する者は調整し、調整後に予選、予選は３人１組でタイムを競い１位のみが決勝レースに勝ち残れるルールにしました。練習走行で、タイヤが外れたり、コースアウトしたり、ゴールまでたどり着けなかったりの車もありましたが調整し、予選レースに臨みました。

予選レースは、全員、一人一人に苦労したことやレースにかける意気込みなどをインタビューし、その後車検を受けて、スタートグリッドに並べます。レースに臨む３人は、ゴールで自分の車を見守り、F1 テーマ曲の中、石岡３団の関根隊長の軽やかな実況に呼応なしに盛り上がり、ビーバーの第１レーススタートがスタートしました。ビーバーは、12 名の参加で、４レース実施し、決勝は、２名づつで行われ、タイムで順位が決まりました。

続いてカブスカウトのレースです。やはり、カブになるとスピードも増して、レースカーも洗練された感じがしました。３台が３台ともゴールする様は、なんとも言えない高揚感が会場内を包み一層の盛り上がりを見せていました。カブは、42 名の参加で、14 レース実施し、決勝は、14 人で競われました。４地区最速のタイムは、３秒 51 でした。

レースが終わり、全員のレースカーは、展示台に並び、デザイン賞の順位を決める投票を行いました。会場にいる参加者全員で投票を実施し、デザインでよかった車の順位を決めました。グランプリの３位まで、デザイン賞の３位までの表彰式を行い。それぞれ、１位はトロフィーと賞状、金メダル。２位は賞状と銀メダル。３位は賞状と銅メダルを平澤地区委員長より受け取りました。セレモニーで平澤地区委員長の講評をもらい、次回の開催を願いながら解散しました。

◆大会スタッフから

初めての取り組みで、まずは、６月の大和の森でレースカー試作に参加させてもらったことで IB グランプリのイメージが得られ、初めてのイベントでしたが、スムーズに大会を運営までこぎつけられました。

また、４地区の委員の皆さんがアイデア豊富で、２回の打合せで本番のレースを開催でき、本当に４地区のプログラム委員、地区コミッショナー、事務局に感謝です。当日は、始まる直前まで、練習走行と予選レースの走る組は同じと考えていましたが、隊長たちから「予選結果が見えてしまう」との意見があり、予定変更して練習走行は並び順とした。このことも、結果的に、レースが盛り上りに一役かいました。(実行委員長)

◆参加スカウトから

● IB グランプリは楽しかった。今度はカーブのコースも入れてほしい。他の人が走らせている時に自分の車の空気の抵抗を考えていて、真ん中のコースがいいか端がいいか考えた。今度はもう少し工夫したいので、また絶対やりたい。



● 予選のタイムより、決勝のタイムが下がってしまったので、くやしかった。またやりたい。今度はデザインもがんばりたい。

● 作るのも、走らせるのも楽しかった。

◆保護者から

● 久しぶりに子ども一緒に夢中になって工作した感じがした。重さが重い方が早くなるだろうと思い重量オーバーにならない程度に重しをつけたことが結果的に良かった。

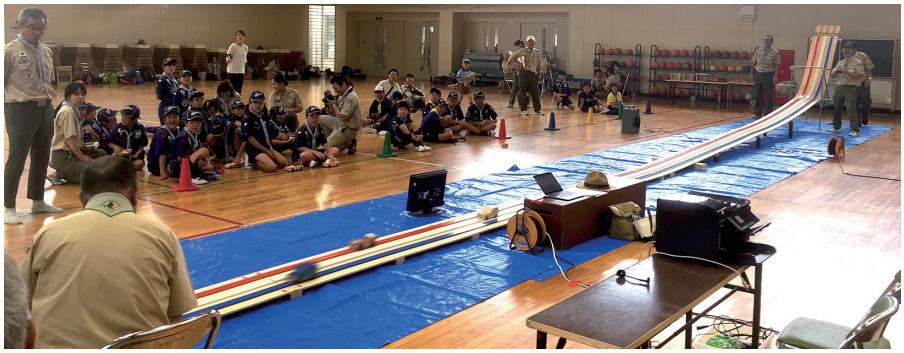
● 旦那様にこれだけは作ってとお願いして、子供と作ってもらった。イヤイヤ始めている感じでしたが、後半は、本人よりも旦那様の方が夢中になって作っていた。

● 当日行ってみると、コースも本格的でびっくりした。レースカーも親子で相談しながら作成し楽しめた。ありがとうございました。

● 夏休みだったので一緒にレースカーを仕上げていきました。やっていくうちに私の方が夢中になってしまいました。レースも一緒に見学させてもらいましたが、みんな楽しそうでした。今度は大人のレースも是非やってほしいです。期待しています。

◆隊指導者から

● スカウト達が本番をとても楽しみにしていました。当日ちゃんと走れるか、早いタイムが出るかドキドキワクワクして、レースを見つめる目が真剣で輝いていたのが印象的でした。スカウトもリーダーも保護者もとても楽しい１日でした。コースやキットの準備等は本当に大変だったと思います。有難うございました。



05
災害ボランティア活動
今年度の取り組み状況



● **平成 30 年 7 月豪雨 災害募金**（実施日順）
取手第 3 団（7/14・つくばみらい市内）
守谷第 1 団（7/16・守谷市内）
牛久第 2 団（7/28・牛久カッパ祭）
牛久第 1 団（7/29・牛久カッパ祭）
阿見第 1 団（8/4-5・まい・あみ・まつり）
水戸第 5 団（8/24・水戸市内）
日立第 5 団（9/8・よかっぺまつり）
水戸第 8 団（9/15-17・カブキャンプにて）
土浦第 5 団（9/15・土浦市内）
神栖第 1 団（9/16・神栖市内）
結城第 1 団（9/24・結城市内）

●**北海道胆振東部地震 災害募金**（実施日順）
神栖第 1 団（9/16・神栖市内）
石岡第 3 団（9/16・石岡駅）
牛久第 1 団（9/17・牛久市内）
結城第 1 団（9/24・結城市内）
守谷第 1 団（9/29-30・守谷商工会祭）
ひたちなか第 2 団（10/6・ひたちなか市内）

以上、10/30 までに県連事務局に報告があった活動です。

これら皆様からお預かりした募金は、それぞれ各団から、ボーイスカウト日本連盟、日本赤十字社、茨城新聞社、福祉協議会、朝日新聞厚生文化事業団、共同募金会等を通じて被災地にお送りしました。

06
イオンモール土浦、イオンモール水戸内原で
全国防災キャラバン実施

ボーイスカウトでは、イオンモール株式会社の行う、「全国防災キャラバン」に協力し、地域での活動を行うボーイスカウトとともに、モットーである「そなえよつねに」の精神で〝防災〟をテーマに、役立つスキルを参加型のプログラムとして、地域の子どもたちに紹介・体験を提供しています。



今年度は「全国防災キャラバン 2018」を 6 月 17 日にイオンモール土浦で、10 月 21 日にイオンモール水戸内原で実施しました。

提供したプログラムは、スタンプラリー形式で、ブロック積み＆崩しゲーム、簡易担架づくり、新聞紙でつくる防災グッズづくり、ロープワーク、テント体験などのブースを訪れました。多くの子ども連れのご家族が参加されました。



07
新たな野外活動の拠点
高萩スカウトフィールドに GO!

高萩スカウトフィールドは、昨年の 8 月にグランドオープンした、ボーイスカウト日本連盟が所有するキャンプ施設です。

この高萩スカウトフィールドは、ボーイスカウトの活動はもちろんですが、学校や青少年育成団体の野外活動、市町村や企業の研修などで使用することができます。

これまで、施設が完成する前から、高萩の小学生を対象にした「しぜんとあそぼデイキャンプ」を数年に亘って実施し、施設が完成してからは、「しぜんとあそぼデイキャンプ」の他に、県内外の小学生を対象とした「親子キャンプ」「小学生キャンプ」、県内の高校の野外活動体験授業など、徐々にその活動範囲が広がっています。

現在、キャンプ場の他に、管理棟兼宿泊棟（40 人宿泊可・風呂付・厨房利用可）、2 つの屋外トイレ棟とシャワー棟、屋根付きの広場、1000 人収容のアリーナ、キャンプファイア場、ネイチャートレイルのコースなどが整っています。

ボーイスカウト茨城県連盟でも、ボーイスカウト年代の県大会である茨城県キャンポリーやベンチャーラリーを実施したり、ボーイスカウトのジュニアリーダー（グリーンバー）の養成、指導者の各種研修などに活用し、これからも大いに活用をしていく予定です。

各団でのスカウト活動（日帰り、野営・舎営）も可能です。申し込みは日本連盟へ直接が基本となりますが、茨城県連の各団での利用については、必ず県連事務局を通しての申し込みをお願いします。

利用条件、利用状況等はこちらのホームページをご覧ください。

https://www.scout.or.jp/facility/takahagi.html



SCOUTING 茨城

SCOUTING 茨城　2018 年　第 2 号　通算 48 号　　平成 30 年 11 月発行
発行　日本ボーイスカウト茨城県連盟事務局
〒 310-0034　水戸市緑町 1-1-18　茨城県立青少年会館 3F

※ SCOUTING 茨城は、不定期で発行しています。
※ SCOUTING 茨城は、県連ホームページからもダウンロードできます。
　http://www.scout-ib.net/
※ SCOUTING 茨城に掲載されている写真・文章等は著作権法等により保護されています。
　著作権者に無断の複写・転載は堅くお断りいたします。